



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校のユネスコスクールとしての活動は、主に環境ボランティア部が担っています。環境ボランティア部は、株式会社角文様にご協力をいただき、地域の自然環境や生物多様性について調査を行っています。

関連する主な活動は、(a) 蛍の幼虫を羽化させ蛍観賞会を実施することと、(b) 地域の河川の生物調査を行うことです。

#### (a) 蛍の幼虫の飼育と蛍観賞会について

本年度も角文様より蛍の幼虫を200匹ご提供いただきました。その幼虫をビオトープに放流し、6月に蛍観賞会を実施しました。

しかしながら本年度の観賞会で確認できた成虫はわずかに一匹でした(例年は一割ほどが羽化します)。延べ100名を超える多くの方にご来場いただきましたが、さみしい結果になってしまいました。角文様に原因を聞いたところ、「5月の気温が高かったことが原因と考えられる。幼虫を提供した他の施設も、予想よりも一週間羽化が早かった。」とのことでした。

このことから、生徒たちは「成虫の生存期間が一週間程度だから、観賞会の前に寿命を迎えてしまったのかもしれない。」と考えました。他にも、「ビオトープ内にアメリカザリガニが侵入している。ザリガニが蛍の幼虫を食べてしまったのかもしれない。」「餌となる巻貝をもっと増やしたらよかったかもしれない。」との意見も聞かれました。

生徒たちが、自分たちが立てた仮説をどう検証するか考えたところ、来年度は一部の幼虫を水槽で飼育することにしました。そうすることで、外敵から隔離し、水槽内に巻貝を多く投入することで、餌の生息密度もあげることができると考えたからです。まずは外敵、餌の条件を変えて二つのグループを比較することで、生徒が立てた仮説を検証し、新たな課題を設定する予定です。

#### (b) 地域の河川の生物調査について

本年度も鹿乗川神田排水路と猿渡川にて生物調査を行いました。例年と異なる点は、角文の神谷様が参加され様々な道具を貸していただいた点と、実施時期が天候の関係で夏休みにずれこんだ点です。(例年はゴールデンウィークと夏休みに実施しています。)

実施時期延期の影響は特に鹿乗川で顕著となりました。ゴールデンウィークには目視で確認できた魚群が、夏休みには確認されなくなり、モツゴやカマツカ、メダカなど十数匹しか捕獲することができませんでした。(昨年度と比較して捕獲できた種は大きな変化はありませんでした。)また、昨年度捕獲され、カワバタモロコの可能性があるかと判断された種は、神谷様が碧南水族館に確認し、タモロコであることが判明しました。猿渡川での生物調査では、前日に降雨があり増水していた影響からか、河川での活動では捕獲できず、猿渡川から水を引いている柿田公園内での調査となりました。実施時期、天候の影響の大きさを痛感した調査となりました。

本年度の調査では十分なサンプルが確認できなかったのですが、来年度も神谷様が参加してくださる予定ですので、アドバイスをいただきながら実施をしたいと考えています。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）